



戦火絶えぬ世界で 祈りの「ぞうれっしや」

太平洋戦争を生き抜いたゾウの実話をもとにした合唱組曲「ぞうれっしやがやってきた」のコンサートが22日、埼玉会館(さいたま市浦和区)で開かれる。歌うのは30年以上歌い継ぐ川口市の合唱団。戦後80年の節目に、代表は「100年、200年と続く通過点になるよう、平和への祈りを込めて歌いたい」と語る。

「凝縮させた豊かな声で!」「祈るように」

6月初旬、川口市の芝西中学校陽春分校の体育館。指揮者の酒井敦さんの指導のもと、3、96歳の団員が本番に向け、歌声を響かせていた。

「ぞうれっしやがやってきた」は太平洋戦争中の名古屋市の東山動物園(当時)のゾウを描いた絵本が原作だ。

戦時中、旧日本軍は空襲でおりが壊れて逃げ出す危険性があり

指揮者の酒井敦さん(左)の指導で練習する団員たち。川口市芝園町

団員3～96歳 川口の合唱団あす公演

るとして、動物園の猛獣の殺処分を命じた。だが、東山動物園では園長らが抵抗し、2頭が生き延びた。戦後、ゾウを見たいという全国の子どもの願いをかなえるため、1949年に旧国鉄(現在のJR)が協力して特別列車「ゾウ列車」が走り、夢と希望を与えた。こんな物語を11曲(約45分)で編成する。

この合唱組曲が愛知県で86年に初演されると、各地に「ぞうれっしや合唱団」が誕生し、曲を歌い継いできた。川口市の「川口ぞうれっしや合唱団」は90年に結成された。

同合唱団代表の荒木紀理子さん(70)は「歌には、戦火をかくくぐって生き延びたゾウと出会えた子どもたちの喜びや希望、平和や命の大切さなどが詰まっている」と話す。

合唱団は「いのちと平和と子どもたち」をテーマに91年から2年に1度のペースでコンサートを開いてきた。コロナ禍で中

「命をいつくしむ心を忘れないで」

断もあつたが、公演ごとに団員を募集し、団員はこれまでに延べ5千人以上に上る。「親子3世代で参加する人もいる。思想や信条を超え、人づてで大きな輪ができてきた」(荒木さん)16回目となる今回は約1500人の団員のうち、半分ほどが初参加という。練習場所近くの芝園団地に多く住む外国籍の住民も参加し、昨年11月から練習を重ねてきた。

世界では、イスラエルのパレスチナ自治区ガザ侵攻、ロシアによるウクライナ侵攻など命を落とす人が絶えない。荒木さんは歌の中の印象的なフレーズにラストの曲「平和とぞうれっしやもたち」の一節を挙げる。

人間の命をいつくしむ心を動物の命をいつくしむ心を子どもたちよいつまでも忘れないでほしい

荒木さんは「世界で戦火が絶えない世の中だからこそ、平和への思いを感じてくれると嬉しい」と話す。

公演のチケットは完売済み。8月2日に、蔵市平和都市宣言40周年記念行事でも演奏する予定という。問い合わせは、メール(kawaguchizou21@st.itione.jp)、または荒木さん(048・268・9256)。(黒田壮吉)